

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 海外トップアスリート事前合宿誘致事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

清流の国推進部 地域スポーツ課 スポーツ交流係
電話番号：058-272-1111 (内 2948)
E-mail: c11172@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 26,606 千円 (前年度予算額：13,448 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支 出 金	分 担 金 負 担 金	使 用 料 手 数 料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	13,448	0	0	0	0	0	0	0	13,448
要求額	26,606	0	0	0	0	0	9,812	0	16,794
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

海外トップアスリートの事前合宿を誘致することで、県内スポーツ施設のブランド価値を高め、“スポーツの聖地づくり”を進める。

(2) 事業内容

飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアにおいて、海外トップアスリートの合宿誘致及び受入れを行う。

(3) 県負担の考え方

東京2020オリンピック・パラリンピックを控え、県内スポーツ施設のブランド価値を高め“スポーツの聖地づくり”を進めるため、県負担が必要。

(4) 類似事業の有無

・ 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	120	職員旅費
消耗品費	261	
対外交流費	150	懇談会経費
委託料	13,426	ホストタウン交流事業、ホストタウン事後交流招聘費
使用料	44	
負担金	12,605	飛騨御嶽高原ナショナル高地トレーニングエリア推進協議会負担金
合計	26,606	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

清流の国ぎふスポーツ推進計画においても、県内スポーツ施設における合宿の積極的な誘致について記載している。

(2) 国・他県の状況

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、他県も積極的に合宿誘致を進めている。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
東京 2020 オリンピック・パラリンピックを控え、県内スポーツ施設のブランド価値を高め“スポーツの聖地づくり”を進める。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
海外合宿受入れ回数 (延べ団体数)	0回 (H26)	6回 (H29)	8回 (H30)	10回 (R1)	8回 (R3)	100%
海外合宿受入れ人数 (延べ人数)	0人 (H26)	33人 (H29)	40人 (H30)	45人 (R1)	50人 (R3)	90%

○指標を設定することができない場合の理由

--

(前年度の取組)

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 - ・令和元年6月にアメリカオリンピック委員会関係者の視察を実施。
 - ・令和元年11月に中国青海省 体育科学研究所関係者の視察を実施。
 - ・令和2年度は新型コロナウイルスにより海外渡航が制限されたことから来日実績はないが、メール等による各国との調整は継続。

(前年度の成果)

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
令和2年度は新型コロナウイルスにより海外渡航が制限されたことから来日実績はないが、メール等による各国との調整は継続。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、全国各地で合宿誘致が活発化しており、岐阜県としても飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアをはじめとした県内スポーツ施設のブランド価値を高め“スポーツの聖地づくり”を進めるため、海外トップアスリートの事前合宿誘致の必要性は高い。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	H27 合宿実施選手がリオデジャネイロオリンピックでメダル獲得したことは非常に効果的なPRとなった。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) △	恒久的な整備を考える余地がある。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>事業効果を最大限に発揮するため、海外トップアスリート受け入れに関する整備や支援を的確に実施する必要がある。また、受入れ実施にあたって、課題となった点について、今後の誘致活動に資するものとする必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>東京 2020 オリンピック・パラリンピックを控え、合宿の誘致及び受入れを行うことで、県内スポーツ施設のブランド価値を高め、“スポーツの聖地づくり”を進める。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	—
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	—